

いこまタウンミーティングでいただいたご意見等（@北地区R7.5.11）

ご意見等は、「当日の挙手、アンケート用紙、オンラインアンケートフォーム、slido」から記載しています。

NO.	ご意見等	担当課	回答
1	市長の生駒の現状紹介、とても興味深く聞かせていただいています。これらのデータ、手軽に入手できますか？	広報広聴課	生駒市のホームページのこちらに掲載する予定です（5月12日にアップ済み）。 https://www.city.ikoma.lg.jp/0000037608.html
2	学研北生駒地区のまちづくりにおけるスライドの「スマートシティを目指したまちづくり」の具体的な構想を教えてください。	学研推進課	・スライドでお示した5つのまちづくり方針の一つですが、これらの方針は、事業施行主体となる地権者組織において定められたものです。想定イメージとして、IoTを活用した低炭素モビリティによる地区内外移動システムが掲げられています。 ・本市北部地域の地域拠点として位置付けているエリアであり、これらの方針によるまちづくりが実現できるよう、地権者組織と連携しながら取り組んでいきます。
3	生駒市の地産地消レベルを日本トップクラスにするとか協働レベルがトップクラスとか、音楽活動がトップレベルとか、学力ではないできないことに挑戦する他に例をみないようなトップを目指すのも生駒市の魅力として挑戦するのもワクワクします。	広報広聴課	ありがとうございます。総合計画に掲げる将来都市像「自分らしく輝けるステージ・生駒」の実現が、そうした魅力の創造につながっていくものと考えます。
4	北部の開発によるPFAS汚染のような基本的な命の源の水や空気の汚染が心配です。	学研推進課	自然環境や生活環境に十分配慮し、事業を推進します。
5	高山第2工区及び学研北生駒の学研推進は、奈良県の計画との調整があると聞きましたが、県との計画の調整について現時点でどのようになっているかを伺いたい。	学研推進課	学研高山地区は、関西文化学術研究都市建設促進法の規定により奈良県が策定する「建設計画」に基づき事業推進することになります。この上位計画の変更に向け、これまで奈良県と調整協議を進めてきましたが、現在は奈良県で国との協議など変更手続きが進められています。今年度中頃には変更される見込みです。また、学研高山地区と学研北生駒駅を結ぶ都市計画道路などの都市計画変更については、本年4月に変更手続きが完了しています。
6	会場であるコミュニティセンターなど、生涯学習センターの活用が、高齢者だけではなく、若年層や主婦層、さらに不登校児の活用、大学との連携など、今日ご説明があった内容を実現するためのコミュニティの場所としても活用できそうですが、生涯学習施設をはじめ公共施設の活用において、何かお考えはありますか？	スポーツ振興課	生涯学習施設・スポーツ施設については、高齢者が利用されることが多いですが、休日、夏休み等は各種イベント等への参加や図書館をはじめ自習室等、子どもや働き盛り世代の方などの利用も多く、様々なコミュニティの場としてご活用いただいています。今後、オンライン予約やキャッシュレス化などの利便性の向上を行い、より多くの市民のコミュニティの場として活用いただきたいと考えています。
7	それにしても久しぶりにタウンミーティングに参加してこういう機会を作ってくださいことやこのようなスマホで簡単に意見交換ができるとかデジタルきみみポストを作ってくださいっていることにはとても感謝します。	広報広聴課	ありがとうございます。引き続き市民の皆様に関心を持っていただけるよう、市政情報の発信に努めていきます。
8	小さくつながる場づくり講座にも参加しましたし、ボランティア登録もしております。街のコインも使っていますがこうした地域のつながりを、多くの人が持てるきっかけを益々充実させて欲しいです。	市民活動推進センター らポート	ありがとうございます。引き続き市民との協働によるまちづくりを推進していきます。

NO.	ご意見等	担当課	回答
9	不登校から、コミュニケーションが全く取れなくなった子が、将来働く場所を作るなどは考えておられますか？	生涯学習課	様々な困難を抱える子どもや若者、その家族等に向け「子ども・若者総合相談窓口（ユースネットいこま）」を開設し、一人ひとりの思いや状況に寄り添った相談や自立支援を実施しています。 就労に関するご相談では、ご相談者の方々が希望される働き方や業務内容、条件等、様々に異なっています。ユースネットいこまでは、一人ひとりの思いや状況に寄り添った対応や支援を行い、就労後も必要に応じて支援を行っています。福祉の部署とも連携し、重層的な支援体制を活かしてご相談者の方々が希望される就労に向けて、丁寧に支援を行っています。
10	コミュニティバスを土日祝日もお願いしたい。天理市はチョイソコ天理というコミュニティバスにして、市民が電話やアプリで予約するので、生駒市のコミュニティバスのような乗客無しの運行がなく、土日祝日も運行している。	防犯交通対策課	本市のコミュニティバス「たけまる号」は収支目標を設定しており、その目標を達成できなければ運行を見直す、というルールで運行しています。土曜・日曜日、祝日の運行は費用が増加し、収支目標の達成が困難になると見込まれることから、今のところ実施は難しいと考えています。 <参考>市内路線バスの利用実績を使った平日と土曜・日曜日の比較（同じ時間帯（9時～18時）） ・土曜日は平日の8割の利用 ・日曜日は平日の5割の利用 また、使いたいときに予約し運行するデマンド型の交通も事例はありますが、定時運行を望む声も多く、現時点では今の運行方式で実施していきたいと考えています。 今後もコミュニティバス等の公共交通を通じて皆さんが日常生活を送る上で必要となる活動機会を保障するという考えのもと、他自治体の事例も合わせて、より良いサービスの提供に向け検討を続けていきます。
11	会社員として勤めるとか、起業するというパターンだけでなく、在宅ワークとかりモートワークがしやすくなることによって、年齢だけで就職出来ない高齢者や母親がスモールワークすることによって仕事をしやすいように生駒市で支援して欲しい（イコマドのような場所を欲しい）。	商工観光課	・まさにそのような考え方で働き方の多様化を進めており、具体的には今年度、市内企業から市民に業務を委託できるような仕組みをつくりまします。市民の皆さんに向けて、市内で就職以外の働く選択肢を増やすことに貢献できると考えています。 ・令和8年度からセイセイビルで新たなイコマドが開設され、事業者や市民の交流と学びを推進します。イコマドをご利用いただくことで、希望する働き方を見つける機会につながるのではないかと考えています。
12	空き家の問題にどのように対処していくのでしょうか。新たな住宅地を作るのではなく今ある家の活用を考えて欲しいです。高山の開発は100年後に子どもたちに何を残すべきかを考えて欲しいです。私はオオタカ達の他の生き物達の多様系のある場所として残すほうがAIやデータセンターやバイオテクノロジーよりも未来の世代が喜んでくれると思います。未来型の開発とはいかに生物多様性を保持するかわからないかと思っています。	住宅課 学研推進課	（住宅課） ・本市では、平成28年に水道使用量を基にした詳細な空き家調査を実施しました。空き家の数は、約1400軒でしたが、令和5年に実施した空き家調査では、100軒近く減少していました。 ・平成29年に住宅政策室（現住宅課）を設置し、職員が空き家所有者に丁寧にアプローチするなど空き家の利活用を促進する事業に熱心に取り組んでおり、全国の先進事例として国土交通省のモデル事業に幾度も採択されています。 ・一方で生駒市の人口は減少していますが、世帯数は増えています。一人暮らしの方が増えているので、今後は、空き家は増えていくと考えられます。家財道具の片づけができないために流通に乗せられないということもあると思います。空き家を活用して創業するなど、空き家の解消だけでなく地域の活性化に繋がる取組みをしていきたいと考えています。 （学研推進課） ・本市は他都市に比べて産業機能の集積が乏しく、県外就業者の割合が5割を超えるなど、今後の少子高齢化の中で持続可能な都市経営を行っていくためには、産業振興と雇用の創出、働き盛り世代が市内で働くことのできる場の創出が非常に重要であると考えています。 ・また、学研高山地区は「関西文化学術研究都市建設促進法」により、「文化学術研究地区」の一つとして位置付けられています。 ・オオタカにつきましては、以前は「国内希少野生動植物種」でしたが、生態が回復し、「国内希少野生動植物種」から解除されました。しかし、生物多様性は重要であると認識しており、本市が目指す学研高山地区のまちづくりの方針をとりまとめた「学研高山地区第2工区マスタープラン」においては「都市と自然環境の共生」のもと、周辺の緑豊かな自然環境等と共生を図る自然的土地利用と、学研都市にふさわしい土地利用の誘導を図ることとしています。 ・このように、けいはんな学研都市が目指す最先端技術の集積と学研高山地区周辺の自然・文化が共生する都市づくり、産業振興と雇用の創出、働き盛り世代が市内で働くことのできる場の創出にむけ取り組んでいきます。

No.	ご意見等	担当課	回答
13	高齢者です。今日のチラシにあるような特殊詐欺などがとても不安です。詳細な事例紹介を欲しいのですが。	防犯交通対策課	自宅までカードを取りに来る「劇場型詐欺」「リフォーム詐欺」「ロマンス詐欺」など、手口は多様化、複雑化し、被害額も大きくなっています。市のホームページ https://www.city.ikoma.lg.jp/0000037052.html で事例を紹介していますのでご覧ください。また、公共施設にもチラシをおいています。悩んだり困ったことがあれば消費生活センターに相談していただきたいと思います。
14	（Slido）不登校の数増加について。不登校の受け皿は本市でもありますが、不登校を防ぐための施策はありますか？「生駒市子ども計画」がそれに近く感じますが、具体的にどんな変化を創るのでしょうか？（講演会？コミュニティ？）自己決定と同じくらい子どもの睡眠不足（夜更かし）の問題も大きく影響していると思いますが改善は必要ではないですか？ （アンケート）今回は全体的な内容でしたが、私自身子育てや子どもの成長（～高校生まで）に関わっているので、それに特化したミーティングを開催してほしいです。現場の声、特に困っている初期の人の声が埋もれているように感じます。不登校になったあとの受け皿は本当に多くある生駒市ですが、「なんとなく学校へ行きたくない」「なんかやる気が出ない」という子どもを減らす事が不登校を防ぐ事に繋がるのではないのでしょうか？堺市で取り組んでいる「眠育」という睡眠教育で子どもたちの不登校数が半減する、自分を大切と思える数が増えるなどの成果がでています。子育てに力を入れている生駒市だからこそ、自己決定ができる、健康で過ごせる子どもが増えるような施策を期待します。	・広報広聴課 ・教育指導課（教育政策室）	・不登校の児童・生徒数は増加傾向にあり、中学生が多かったのですが、コロナ禍明け以降小学生も増えています。 ・校区の学校に行くのが難しいケースでは、（小規模特認校である）生駒南第二小学校を検討していただいたり、自由なカリキュラムで自分のペースで学べる「のびのびホットルーム」に行くお子さんもおられます。 ・学校の中に校内サポートルーム（学校には来れますが、クラスに行くことに抵抗感のあるお子さんが利用できるスペース）の整備を進めており、人員を配置する取り組みも行っています。 ・民間の子どもの居場所を活用するとか、フリースクール等の代表の方々と意見交換をする等、学びの場をたくさん用意するようにしたいと考えています。 ・もちろん校区の学校に来なくていいということを推奨するわけではありませんが、校区の学校に行って学ぶということだけが必ずしも学びではありませんので、家でオンラインで勉強したりさまざまな場所でお子さんなりの学びをしたりというふうにつえれば、必ずしも校区の学校に戻るということが目標ではなく、市内の様々な場所で学ぶ機会をつくることで、不登校という概念をなくせるのではないかと思います。 ・子ども自身が自らを肯定する、それを保護者や先生が応援することが大事と考えます。 ・眠育等、堺市の取り組みは参考にしたいと思います。
15	私は、ひとりっ子、独身で、天涯孤独です。自分の死後処理を、サポートしてくれる業者を探していますが、安心できるシステムになっているようには、思えません。生駒市としては、高齢おひとり様が、自分の死後も安心できる環境を整備していく施策は、ありますか？	・地域共生社会推進課 ・包括ケア推進課	・一人暮らしの方（子供がいない、または遠方に住んでいる）は増えています。65歳以降、家やペットやお墓の問題、パスワードの整理等、高齢期の終活に備えていただく必要があります。 ・令和7年度、少額ではありますが（高齢期の生活課題・終活支援について）予算も確保しています。 今後さらに取組を拡充していきたいので、市からの情報も見ていただき、ご意見をいただければありがたいと思います。
16	くるりの自治会や市民活動への広がりを期待します。	デジタルイノベーション推進課	ありがとうございます。より多くの市民の皆さんに使っていただけるよう進めていきます。
17	こういったミーティングがきっかけで地域のことを考えて取りくむ人々が集まる場、リアルな会やSNS、ネット上なども増えて新しいチャレンジが生まれたら良い。	広報広聴課	ありがとうございます。今後とも、市民同士のつながりがより豊かなまちになるよう、さまざまな取り組みを進めていきます。

NO.	ご意見等	担当課	回答
18	北生駒周辺の開発を具体的に知りたい。また、完成時期の予定。日常生活と関連するので。	学研推進課	・工事の完成時期は未定ですが、造成工事の完了は組合設立から4年程度を要する見込みです。本市ホームページ「生駒市学研北生駒駅北土地区画整理準備組合」 https://www.city.ikoma.lg.jp/0000035648.html の第7回役員会の資料にスケジュール案を掲載していますのでご覧ください。 ・本事業の概要や進捗状況につきましては、本市ホームページ「学研北生駒駅北地区のまちづくりのページ」 https://www.city.ikoma.lg.jp/0000023357.html に掲載していますので、そちらで最新の状況がご覧いただけます。
19	学研北生駒駅の開発についての状況を自治会などを通してもっと身近に伝えて欲しい。真弓地区では敬老の日など高齢者に対し何の働きかけもないので寂しい。	学研推進課	・本事業の概要につきましては、広報いこま「いこまち」令和6年11月号に掲載したところですが、今後も事業の進捗に応じ、適宜掲載していきます。 ・なお、本事業の概要や進捗状況につきましては、本市ホームページ「学研北生駒駅北地区のまちづくりのページ」 https://www.city.ikoma.lg.jp/0000023357.html に掲載していますので、そちらでは最新の状況がご覧いただけます。
20	奈良先端科学技術大学院大学の近くに住んでいます。今後の成長、期待をもっています。少しずつ事業所も増えてきていますが、精華町に比べると発展がまだまだと思われます。	学研推進課	・けいはんな学研都市が目指す最先端の技術の集積と学研高山地区周辺の自然・文化が共生する「高山地区」ならではの研究環境で、新たな技術や価値を創出し、日本社会をリードする、また、世界へ向けて発信するサイエンスシティを目指し、ご期待に応えられるよう、しっかり取り組んでいきます。事業が遅れた分、その間の社会の変化・AIなどの技術進歩も取り込み、また、防災やSDGsも含めたまちづくりを目指します。
21	(高山地区に関して) 交通の確保、楽しいバスを利用する、遊園地にあるようなもの	学研推進課	・学研都市内の移動手段については今後検討すべき課題ですが、AIやデジタルを活用した自動運転や小型車両の活用など検討していきます。
22	高山の開発問題(計画)は私の方も一周出遅れ感がありました。こうした情報入手をおこたっていた市民が再びこの問題(計画)に参画できる機会を作ってもらえたらと思います。	学研推進課	・広報「いこまち」で適宜、進捗状況にあわせ、第2工区の状況について紹介していきます。 ・また、まちづくりに係るアンケートなども行っていく予定ですので、その際にはぜひご協力をお願いします。 <参考>「学研高山地区とその周辺地域の魅力向上に向けたアンケート調査」現在実施中(6月30日まで) https://www.city.ikoma.lg.jp/0000038009.html
23	「コミュニティナース」の取り組みについて、奥大和地域で進んでいる。生駒市でもぜひ取り組んでいただきたい。	-	奈良県の取り組みは、奥大和地域で地域おこし協力隊制度や集落支援員の制度を使って大和地域活力推進課が地域振興の一環として実施しているものです。本市は、地域おこし協力隊等の対象地域ではなく、奈良県のような取り組みと同じ枠組みで実施することはできませんが、福祉・医療・健康の各分野の地域活動として、「コミュニティナース」のほか「まちの保健室」や同種の活動を実施する医療機関・専門職などとの有機的な連携をそれぞれの課で進めていくものと考えています。
24	(各施設での)フリーWi-Fi環境を充実させてほしい (FON wifiのご提案あり)	スポーツ振興課	デザリング機能の普及により、Wi-Fiに対するニーズも変化してきています。コスト面等の課題もありますが、より良い施設の環境整備に向けて検討していきたいと思います。
25	・高山第2工区の開発も楽しみだが、昔のニュータウンは坂道も多く、まちの中心に出るのもしんどい部分もある。近場でここにいけば(用事が)解決するといった場所をつくってほしい。 ・独り身で子どもがいなくても、安心して逝ける、大好きな生駒の地で永眠できるように、地域住民の声をきいて、がんばってほしい。	・地域コミュニティ推進課 ・地域包括ケア推進課	・公共交通やたけまる号の他、「まちのえき」などの取り組みを進めています。「まちのえき」とは、「歩いて行ける場所」に「移動の目的」を集めた場づくりとして取り組んでいる事業で、自治会館などは(地域の集まり、生活支援の場などとしての)受け皿となると考えます。 ・また、終活に関しては、「人生の最終段階に本人が望む医療やケア」について想いを伝える「私ノート」を作成しています。今年度は予算を約14万円確保し、高齢期の生活課題や終活に関する支援策等の情報を市民の皆さんに分かりやすく周知していきたいと考えています。